

盗人掘り

佐々木 佳子 青森

ジャガ芋の盗人掘りの五個を煮て味たしかめむ醤油か塩か
投票する顔と真向かふその人の背を見送る 立会人われ
蟬の声じわじわ聞こゆ投票所の投票箱の票は生もの
完熟の梅のふふふを漬けこんで熟成のちのほほほを待たむ
煮つめれば西日の色に照り返すその時梅はジャムへと変はる

地球のすみで

島 本 ちひろ*埼玉

お揃いの夏風邪兄と弟でひきっこをする七月二十日
恐らくは二胡には触れることのない私の指でぶどうを摘む
チヨコレートプリンのあなたアームドプリンの私地球のすみで
三歳になりたくないのかもしれない泣きおろし
パフェを描くために画像検索でパフェを次々眺める月夜

蟻螂

近 藤 哲 夫 神奈川

モネゑがく日傘の女がついと背を反転させてゆめに入りくる
夏は来ぬキトラ古墳のみんなみをまもる朱雀のふかきくれなる
その理由をわれは知るなり健啖家きみはニワトリだけは食へない
北一輝碑と十五夜お月さん碑隣りあふ目黒不動をもちど訪はん
バレリーナのをどりをへたる容もて茶いろ蟻螂路地に絶えをり

こころの端

齋藤美衣 神奈川

湯の中でゆれる輪郭いちにちを謝ることに費やした日は
「おい、お前証拠がちゃんとあるのか」と見知らぬ男のこゑが言ひたり
そのこゑは愛を告げたことありますか。愛されたことあつたのですか。
すつとと、とたまねぎ刻む霧雨の降り来る音に重ならぬやう
乗り過ごすつもりもあつて金曜はこころの端を少しひろげる

ハンマーヘッドシャーク 能勢玉枝 東京

七月の明るき夕べ四年ぶりに待ち合はせする娘が来るよ
だうだうの中年となり独り身の娘は金目鯛の鮨食む
生まじめな次女の暮らしをあやぶめど夫きょうとに似なれば問題はなし
夏の脛はき鱗めきつつ乾きをりひたひたと思ひ出づる大潮
わたなかはわれが帰りてゆくとこころハンマーヘッドシャークが泳ぐ

いつまでも 山下佐保 新潟

教室へ持つて行くのはチョークではなくなり、リモコン、タブレットのみ
七月のページをめくり動悸するこの夏未曾有の忙しさなり
一つづつ何かを捨ててゆく人生家計簿つけるのやめてしまつた
この夏は枇杷のひとつも成らずして安倍元首相銃弾に死す
わたあめとジャイアントカプリコいつまでもあれかし昭和生まれのために

日曜が好き

早川 晃 央* 富山

デイスカウントストアのエナジードリンクを信じてやまず俺は元気だ
一本が四十五円のエナドリに支えられ今日も自転車漕ぐ
ニトリとかセリアとかスリーコインズをふらふらぶらぶら日曜が好き
別に欲しいものがなくてもゆらゆらと物に囲まれにゆく日曜
日曜のイオンモールに集まってくる暇人とショップ店員

おそれをもちて

松本 由利 静岡

草を取りあらはるる細きひまはりに支へ立てたり娘の産近し
早すぎてわが誕生日に産まれたるみどりごを見つおそれをもちて
七月の風の渦より生まれたる泡のやうなりあをき柿の実
みどりごのねむりの溜まる部屋にゐてからのこゑをむつつ数ふる
大陸を旅せし祖の記憶らし歩かねば泣く腕のみどりご

古川町商店街

小沢 博子 京都

新店舗人気とききてゆく午後の鮮魚うを松水曜定休
はなやかな花束のなき花舗の前バケツに仏花のりんだうの青
この町はお洒落にとほく商ふは仏花と墓花のうすぐらき花舗
視線にて品定めする荒物屋亀の子たはしに夏の眼かゆし
東には白川が清くおだやかに涼し古川町商店街の夏

証拠

才野

洋都
京都

夕立のあとのすずしきこの風は虹からふいてくるかのごとし
ゴム靴でアスファルト踏む感触の生々しさよ灼くる午後二時
来ぬバスを待つ人の列のびゆきて夏の日差しの中へあふれぬ
見たことはないが信じてゐるものの数多あるなり例へば原子
人類が減びに至る道にゐる証拠のやうなニュースまた今日

上から目線

池下寿子
和歌山

乾きたる地に貼り付きてオオバコはやることやりすぎ庭を占拠す
もう大人すつかり大人と味はへりゴーヤの苦み獅子唐の辛み
上から目線ですみませんけど家居する夫にゴミの出し方教ふ
新盆の家を喪服で廻りゆく翅黒蜻蛉は縁者のごとし
納屋のまへ繕ふ孫の捕虫網ゆふべ涼しき風にあたりて

父のメール

有川知津子
福岡

なつぞらを眺めてをりぬ知らぬ地に母をひとりで入院させて
母にご飯を運んでくれる人をおもふ朝ご飯、昼ご飯、夕ご飯どき
同じ列におなじプリント配りをり母の手術とかかはりはなく
母のゐない家はわからぬ箱多くこよひの父は敬語をつかふ
庭の薔薇です 父のメールはそれだけで送つたらしき写真とどかず